

上士幌町

開町80年

80th Anniversary

Kamishihoro



▲当時は農耕馬は、最も大事な動力源であったとともに、収入源でもあった。本町は、十勝の共進会において、古くから入賞馬を出すほどの馬産地として知られていた。

シリーズ
2

かみしほろの歴史を振り返る

いのちを支える「食」(農業)

今年、昭和6年に当時の士幌村から分村してから80年となる記念すべき年です。主にここ20年の出来事をインタビューとともに振り返っていきます。

本町の原野が開拓され始めたのは、明治40年。上士幌が分村した昭和6年までに入植が集中しており、農耕馬を活用した自力または賃耕による開墾作業を行っていた。農耕馬の飼育頭数は、昭和11年にもっとも多く、その後、昭和30年頃も生産意欲の高まりで多く飼われたが、トラクターの導入により減少を始め、昭和45年頃には農耕馬としての飼育は姿を消した。

上士幌での畜牛飼育で記録されているものは、大正6年で、一般に乳牛が飼われたのは、大正15年である。昭和5年から続いた畑作の冷害凶作に際し、乳牛農家の安定が見習われて、牛の導入が拡がり、昭和11年牛乳輸送がトラック輸送に切り替えられると、昭和13年上士幌市街地に十勝初の民間収乳所が設置された。
昭和30年頃からの農業の大きな変貌は、今でも似た傾向がある。
平成13年度から2期に渡り、上士幌町農業協同組合理事代表理事組合長を務めた高杉國次さんは、「畑作農家戸数は、減ってきているものの、所有面積は10ヘクタール以上増えてきている。酪農業もメガファーム(大規模経営)が増え、多頭化の傾向にある。また、酪農業では受精卵移植技術の向上が大きく、

和牛の肥育頭数が増えた。」と最近20年間の農業形態の変化を語ってくれた。

上士幌地域は、入植の頃から凶冷地帯とされ、昭和10年頃までは、畑作作付の75%を大小豆、菜豆えん豆の豆類で占めていた。昭和35年頃には、寒冷地作物の馬鈴しょ、ビートの作付が安定作物として増大した。また、酪農経営の多頭化によって、飼料作物が急速に増加していった。

「昭和の頃は、畑作4品が中心だったが、近年では、キャベツやゴボウなどの野菜類も増えた。当時は、冷涼な気候で

近年の温暖な気候で

寒冷地作物の生育がよくない
今後のビートの生育に一番注目している



インタビュー
たかすぎ
高杉 くにつぐ
國次 さん

昭和18年生まれ。昭和61年5月より、上士幌町農業協同組合理事として、また、平成13年6月～平成19年6月まで、代表理事組合長(2期)として、21年間役員を担い、本町の農業発展にご尽力いただいた。現在は、ご子息に畑作農業経営を譲り、農作業の手伝いをしている。

(本文の一部は上士幌町史及び町史補遺版より引用して掲載しています)



▲ビートの苗植え

豆類は大正金時や中長豆の菜豆類の栽培が多く、ビートやイモが多く採れていた。しかし近年では、高温を好む大豆や小豆の収量が増えている。病気も見られるようになり、ビートでは、糖分が入らない品種もでてきた。」と近年の気候変動による作物の生育に高杉さんは、注目されている。

町民(文)芸

川柳

ふるさとへ帰れぬ痛み想定外
 アルバムがまた増えていく家族旅行
 本命が当たらずがっかりする競馬
 紫のあじさいが好き蛙鳴く
 父の日は毎年悩むプレゼント
 バーゲンで我先に取るオバタリアン
 頼まれて今日も畑に出勤し
 自然には勝てぬ狭間で右往左往
 内視鏡記憶の闇を写し出し
 安全と言われた原発今地獄

短歌

年々に自家米分けて送りくる南相馬の人たち如何に
 父祖の地を守りて暮らす人たちに原発災害いかに重きか
 吾が庭の桜木に啄木鳥つつきいる二羽交替に飛び来て四五日を
 母の日にむすこ夫婦来て吾が庭にパンヂーの花色とりどり植えぬ

石川 裕子
 高木 慶子

石川 春菜
 米森 博樹
 鈴木 豊
 米森 真弓
 小池 由希子
 八重樫 幸子
 小松 義美
 坂田 いさ子
 白石 馨
 桜花 絵



平成23年4月末現在の人口

男 2,498人(先月比-11人)
 女 2,651人(先月比-11人)
 計 5,149人(先月比-22人)

世帯数
 2,342世帯(先月比+2世帯)

寄付

- ▶11の2区の阿部文春さんは、4月21日に東日本大震災の復興支援経費として金1万円を寄付されました。
- ▶上士幌町農業協同組合は、4月26日に東日本大震災の復興支援経費として金100万円を寄付されました。
- ▶上士幌教会は、4月27日に東日本大震災の復興支援経費として金10万円を寄付されました。
- ▶5区の山下暁彦さんは、4月28日に消防水難救助訓練用としてサバイバルスーツ1着を寄付されました。

上士幌町民憲章

- 1 心もからだもきたえ、すこやかな人になりましょう。
- 1 おたがいに立場を理解しあい、楽しい家庭をつくりましょう。
- 1 きまりを正しく守り、明るい社会をつくりましょう。
- 1 自然を愛し、美しく住みよいまちにそだてましょう。
- 1 文化をたかめ、豊かな郷土を築きましょう。



紙これまでに何度決意したか分からないですが、「今年こそは」とダイエットを実行中です。紙休みの日に高台公園周辺で走っている男を見かけたら、それは私かも知れません。(これからビールが美味しい季節がやってきます...Y)

紙毎日、外で遊ぶことが多くなってきた娘。切り傷や虫さされなどがあると、「私は若いからすぐ直る」と自分に言い聞かせています。紙その後には、必ずこう言います。「パパちゃんは、太っているから、直りが遅いよお〜♪」って。えっ！歳のせいじゃないんだ。(四捨五入すると40歳。健康づくりを早期にスタートすべきかもしれません...K)

広報.....
がみしほろ 7月号は6月24日(金)発行予定